

JICA 草の根事業 第一回本邦研修実施報告

勝又 美穂子

グローバル D&I 推進室 准教授

接合科学研究所では 2024 年度より国際協力機構（JICA）の支援を受けて、ハノイ工科大学と共に草の根技術協力事業を開始しました。

同事業は「ハノイ工科大学における溶接管理技術者育成能力向上」を目指し、5 年の期間で取り組む活動です。事業では主に、当研究所及び本学の教員、そして外部企業の専門家がハノイ工科大学の教員に向けて、機材利用に関する実践知識、研究方法等の技術移転を行うと共に、企業との研究連携を目的とした取り組みの強化、及び「溶接管理技術者講習・試験」の現地での実施等に取り組みます。同活動の一環として毎年 1 回、3 年間継続してハノイ工科大学の教職員が日本での研修活動に参加します（以下、本邦研修）。

本年度は 7 月 28 日（月）～8 月 3 日（日）の日程で 6 名のハノイ工科大学教職員が本邦研修に参加しました。実施された研修概要は以下の通りです。1 日目：接合研での活動紹介と施設見学、組織観察用の研磨に関するトレーニング、2 日目：万博にて最新科学技術に関する学習及び溶接関連企業による展示見学等、3 日目：共同利用・共同研究拠点の組織や活動に関する紹介、ワイヤー放電加工機利用に関する実践見学、4 日目：東亜工業

（群馬県：自動車ボディーの製造等）訪問、5 日目：埼玉大学（溶接及び材料関係研究室）訪問、日本溶接協会での協議、6 日目：研修の振り返り及び今後の取り組みに関する協議（学びの振り返り、今後の活動において具体的に活用可能な点とそこにおける障壁（と解決策））。

6 名の参加者は上記それぞれの研修において自身の知識や専門に基づき、様々な質問を投げかけ、熱心に取り組みました。ハノイ工科大学では、2024 年 11 月に設立された接合科学研究所 HUST-UOsaka への研究機材の導入が進められており（日本政府支援による）、今回の研修中にはそれら機材の運用に迅速且つ直接的に活用できる学びも含まれました。また、今後同事業が目的とする「溶接管理技術者育成の能力向上」には産業界との共同研究は不可欠であり、そのための組織体制づくり、及び資格試験の継続的な実施が重要となるため、機材利用や研究方法に加えて、それら運営に関する包括的な学びが提供できたことは有意義であったと考えます。

本研修は来年度も実施予定です。本研修での学びがハノイ工科大学での溶接管理技術者育成能力向上に十分に活用されることを期待します。



接合研での集合写真

（写真次ページへ続く）



接合研紹介



接合研施設見学（摩擦攪拌接合機）



機材利用研修（ワイヤー放電加工機）



東亜工業訪問



万博訪問



日本溶接協会訪問